



間づくり研究所

Introducing "MA-zukuri" to the world.

「間づくり」を、世界に。

いま、世の中の多くの産業において、WX (Well-being Transformation) が進んでいます。
つまり、自分たちのビジネスを「生活者のWell-beingに資するか？」
という観点で眺めると事業進化のポイントがある、ということに
企業が気づき始めているのだと思います。
「よい間」は、「良い間」、「善い間」、さらには「好い間」。
さまざまな「よさ」を目指してWell-being空間をつくりあげようという
野心的な試み（間仕切のWX）だと期待しています。

予防医学研究者
Well-being for Planet Earth 代表理事 石川 善樹 様



Well-beingの研究者として、
間仕切りメーカーから間づくりカンパニーへ転換する
という理念に賛同します。
なぜなら、**人間のための時間、空間、手間を大切にすること、**
人と人とのつながりややりがいを醸成し、
Well-beingの向上につながると考えられるからです。

慶応義塾大学
ウェルビーイングリサーチセンター長 前野 隆司 様

自らの事業を再定義した結果「間づくり」がコマニー様の事業となった。
「SDGsアジェンダ」の前文にある5P*のうち、特に
「**People**」と「**Prosperity**」をターゲットに、
「**人々のWell-being**」と「**社会の繁栄**」を目指す
間づくり研究所によってSDGsの実践が加速されることを祈念します。

※5P：People（人間）Prosperity（繁栄）Planet（地球）Peace（平和）Partnership（パートナーシップ）

グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン 代表理事 有馬 利男 様



人間の意志決定の癖や感情、行動は、建築や空間、
それこそ「間」のようなものから大きな影響を受けます。
間づくり研究所は、この分野の**日本最先端の実証研究を牽引する**
存在になると期待しています。

行動経済研究
パパラカ研究所 代表取締役 山根 承子 様

私は21世紀に生きる建築家の一人として、
22世紀の景色をデザインしたいと思って日々活動しています。
22世紀の景色はこれまでの世界とは大きく違うものになるはずですが、
「間づくり」という世界水準のコンセプトで、
未来に対する答えの一つを実現する「間づくり研究所」の活動を、
皆様とご一緒できることを楽しみにしています。

COMANY Chief Design Officer
SCAPE 代表取締役 塩浦 政也 様



「間づくり」を、世界に。

「大切なものは目に見えないんだよ」これは、サン＝テグジュペリ作『星の王子さま』
の一節のことばです。目に見えないからこそどうするかと、元来私たち人間は愛や幸福
などと向き合ってきました。

そして、私たちの扱う「間」もまた、目に見えなくとも元来大切にしてきたものであ
るはずですが。私たちが普段、「今日はいい時間を過ごせたな」と感じたり、なんとなく
心地よかったりするとき、「間がない」「間延びした」「間を欠いた」状態ではなく、そ
こには必ず「よい間」があります。そして「よい間」をつくり出すのは、人間を中心に、
すべてのものがそれぞれ調和するよう手間をかける「間づくり」です。

COMANYは60年余り、ずっと間仕切をつくり続けてきました。そして、その間仕
切の本当の価値は間を区切ることでなく、「間」をつくることであったのだと気づか
れます。私たちは「間」をまっすぐに見つめ、能動的に可変的に「間づくり」
していきます。「よい間」を生成することができたならば、より価値高く、
一人一人が光り輝ける社会を実現できる、私たちはそう信じています。
×

この大いなる可能性をもった「間づくり」を探求し、実践するた
めにこの研究所は生まれました。この研究所から生み出される間づ
くりで世界を「間法」^{まほう}にかける、それが私たちの目指すところです。
多くの共創によって、多くの「間づくり」が今、ここに始まろうと
しています。

間づくり研究所 所長

塚本直之



ま 「間」とは何か

二つ以上の要素が生成する関係性

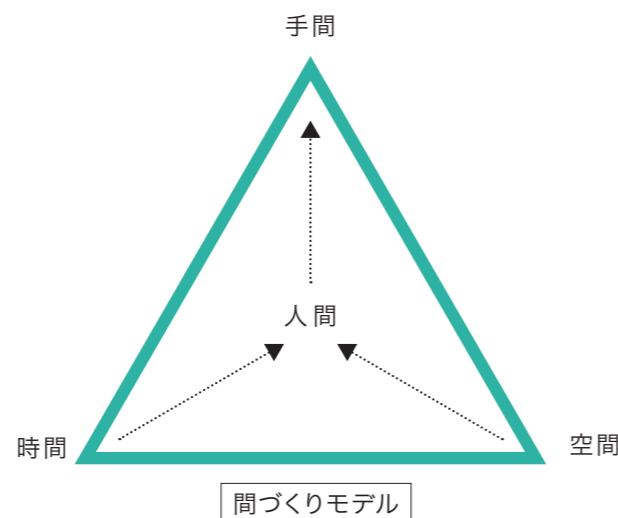
「間」とは日本がもつ伝統文化です。建築の世界では、日本建築は西洋建築とは異なり、廊下に各部屋に入る扉が並ぶのではなく、「一の間」「二の間」「奥の間」と間でつないでいきます。そして、その間を襖ふすまで仕切り、お互いの間合いを調整します。芸能の世界でも「間は魔物」と言われ、変なところで間をとると、「間が合わない」「間が悪い」、間をあけすぎると「間延びした」「間が持たない」、一方で間を詰めると「間がない」「間を欠いた」ということになってしまいます。実は「間」によって演技全体が出来上がるといっても過言ではありません。演者と観客との関係性から生まれる「間」によってその良し悪し

が形成されていると言ってもよいかもしれません。「間」というたった一言でありながら、このことばは「時刻、間隔」などの時間や「部屋、余地」などの空間、さらには「休み、余暇」や「機会、運」まで、実に多様で幅広い意味をもちます。これらを踏まえ、間づくり研究所では「間」とは「二つ以上の要素が生成する関係性」であると定義しています。

ま 「間づくり」とは何か

すぐれた間を生成すること

「間（二つ以上の要素がある場合に生成される関係性）」をより良い方向に整えると、「すぐれた間」が生成されます。間づくり研究所では、このように「すぐれた間を生成すること」を「間づくり」と定義し、その可能性を追求しています。「間づくりモデル」は、多様な意味をもつ「間」を扱う上で、すぐれた間を生成するための考え方です。「人間」を中心に「時間」「空間」を捉え、それにどのような「手間」をかけるかによって、さまざまな間が生まれます。これらの要素を大切に「間づくり」の実績を積み上げていきます。



間づくり研究所の活動

2023年4月10日（よい間の日）に開所し、活動を開始した間づくり研究所。まずはCOMANYに集う1,400人全員が研究員となり、間づくりの追求と実践を積み上げていきます。この活動の軸となる4つの柱を、それぞれの頭文字をとって「IDEA（アイデア）」と名付けました。

IDEAの展開を通じて、私たちは「間づくり」という概念を多くの方が「Well-beingな状態を実現していくうえで大切なマインド」と捉え、「間づくり」を常用語として認識され広く使用されることを目指します。

間づくり研究所の活動 4つの柱「IDEA(アイデア)」

I nput

教育

「間づくりとは何か」の理解を深め、「どうやって間づくりを実践するか」という思考法と実践法を身に着けるためのInput（教育）を進めていきます。間づくりカンパニーであるCOMANYが、「従業員全員が誰でも間づくりができる」という状態になるために、「間づくり研修」を実施します。

D ialogue

対話

間づくりは一人で行うものではなく、お互いの知恵を持ち寄って対話を深め、議論し、一人では生み出せないようなアイデアを創出していきます。1+1が5にも10にもなるような共創の場をつくります。例えば、定期的に「間づくり研究会」を開催し、対話を深めることで「間づくり」を追求し、共感者を増やしていきます。ここで行った対話の内容や研究所で積み上げた知見は、広く多くの方と次の共創につなげていくために、「間づくり研究所のホームページ」にて公開していきます。

E ngagement

エンゲージメント

私たちはCOMANYに関わるすべてのステークホルダーの皆さまともに「間づくり」を発展させたいと考えています。そのため、皆さまとの結びつきをより強めていくために、「間づくり」を理解、共感いただく機会を設けます。具体的には、COMANYが開催するそれぞれのイベントにおいて「間づくり」を感じ、ご理解いただくための機会を設定するとともに、そのイベント一つ一つを間づくりしていきます。

A ction

実践

私たち一人一人もまた、毎日「はたらく」当事者として様々な課題と直面しています。私たちの身の回りで起きている課題を、研究テーマとしてテーマアップし、「間づくり」によって解決していくことで「はたらく間の間づくり」の実績を積み上げていきます。施策を打つ前後での変化を可視化して明確にし、施策の効果や間づくりの可能性を検証していきます。

「間づくり」はより多くの方々と共に課題を共有し、多くのアイデアを重ね合わせることで新たな価値の創造が実現できると考えています。間づくりに共感し、一緒に活動に「間づくり研究」を深めていくことを心から歓迎いたします。

間づくりの可能性

「間づくり」とは視点を変えることのできる新たな言葉であり、間づくりをしたいと自然と思うことのできる行動を促すパワーを秘めています。

さらに、新しい言葉ではあるのに聞き馴染みもあり、不思議と愛着を生む力も持っています。それだけ人を惹きつける言葉であり、自分自身も愛着を感じています。

これだけの魅力がある「間づくり」は可能性に満ちています。私自身、現在の経営企画で仕事をする前は、営業を担当していました。その時はお客様に応えることをガムシャラに行っていました。自分を支えてくれていた社内やサプライチェーンに対しては当然の感覚で無理を言っていたと思い返します。その時に「間づくり」という考え方ができていれば、お客様との関係構築も一層よいものになっていたはずですし、高品質なサービス提供につながる仲間のつくり方ができていたでしょ

う。現在の仕事においても多くの仲間と仕事をしています。それでも近視眼的な見方や、自己防衛的な仕事をしてしまって後悔する日もあります。今、「間づくり」という新たな言葉を手に入れ、「今の行動は間づくりできていたか」と自身に問うことで、視点を変え、行動をも変えることができます。そして間違っていることをやめる決断のできるこの言葉の深さをより探求し、「間づくり」で溢れる世界にしていきたいと思います。



間づくり研究所事務局長
千葉 倉司

「間づくり」という眼鏡をかけよう

文：遅野井 宏

間づくりは、眼鏡だ。この眼鏡のレンズを通すと、日常の光景がまるで違って景色に見えるから不思議である。

普段仕事をしていると、無意識のうちにさまざまなしがらみや習慣に縛られてしまうものだ。組織が成長する過程で生み出された「失敗しないために配慮された仕事の進め方」が習慣となるのは自然のことで、日々の業務をうまく回すためには必要不可欠な組織能力である。しかし当初は意味があり価値をもっていたはずのその習慣は、社会環境に合わなくなっていたり、従業員の価値観とも乖離していたり、新しい仕事の進め方とも合わなくなっていたりするケースが少なくない。そうした矛盾を抱えながらも「これがこの業務のやり方なのだ」と受け継がれていき、知らず知らずのうちに我々のマインドに諦めや固定観念として沈殿していく。

それだけではない。習慣は固定観念になると視野を狭める副作用があり、「この仕事がうまくいかないのはあの部署がちゃんと仕事しないからだ」「あの部門は本当

に現場の仕事がわかっていない」といった他者を責める言動や行動すら生み出してしまふ。そうした関係性の悪さがいつの間にか身の回りにゴロゴロと転がっていて、それを避けるようにふるまい、互いにストレスを掛け合いながら、無理や無駄を生み出してはいないだろうか。

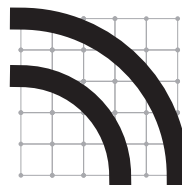
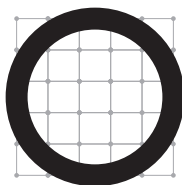
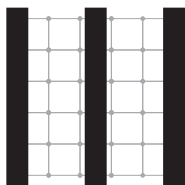
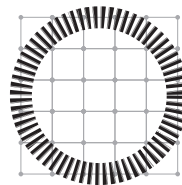
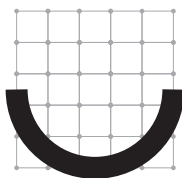
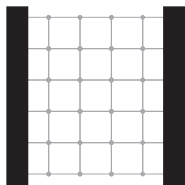
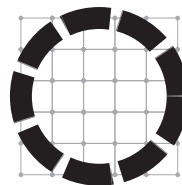
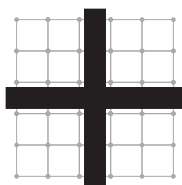
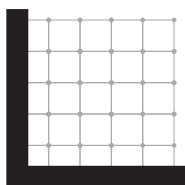
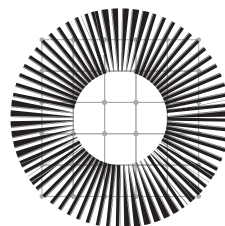
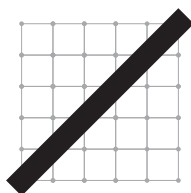
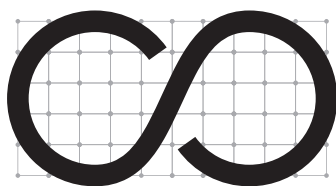
視野が狭まっているからこそ、間づくりの眼鏡をかけて、仕事や働き方、生き方を見よう。目の前の事象における関係性のもつれが、くっきりと見えてくるはずだ。これまでの延長線上でしか考えられなかった改善提案も、間づくりの眼鏡をかけることで「本当に解決しないといけないことは何なのか」が見えてくれば、本質的な価値創出の実現につながるアイデアが湧き出るように生まれてくるだろう。間づくりの眼鏡をかけて、間づくりの言葉の力を最大限に活用し、現状を新たな世界に変化させてみてはいかがだろうか。



間づくりエバンジェリスト
遅野井 宏

間づくりで

Empower all Life を実現する



コマニー株式会社

〒923-8502 石川県小松市工業団地1丁目93番地
URL : <https://www.comany.co.jp/>

B2304-①・1-1000

問い合わせ先

経営企画本部 経営企画部
TEL : 0761-21-1201

